2015.8.19 文教委員会　（発言部分抜粋）

【笹岡委員】　　では、最後に２つだけお伺いしたいなと思います。

　全体的に読んでいて、指定管理にするかどうかという問題について、各委員から皆さん、意見がありましたので、もう少し説明等が必要なのかなと思いましたが、吉祥寺図書館の特色の打ち出し方というのを見ていて、実際にできたら、とてもいいのではないかと思って読みました。

その点で２つ伺いたいのですけれども、運営に参加するというのがとても武蔵野らしいなと思っておりまして、３ページです。高齢者の方がボランティアによる図書館コンシェルジュを展開して、青少年が吉祥寺図書館図書部を創設して、いろいろな運営に携わってもらうという計画があるのですけれども、これ、とてもいいなと思ったのですが、その基準とか、どういうふうに人材確保するのかというのがありましたら、教えていただきたいなと思います。

　もう１点、利用者層別アプローチというところで、「（４）子どもと保護者：気軽さの向上」というものがありまして、親子とか子どもたちに、図書館だからといって遠慮しないで来ていただけるようにという思いが伝わってきたのですけれども、立地からして、あそこの場所に図書館があって、親子が利用していいという施設側の意向があったら、私たち子育て世代からしたらとてもうれしい話ではあります。

周辺に遊ぶところもなかなかないですし、ちょっと寄るところが、しかも気楽に、気軽に寄れるというのがあったらいいなと思うのですけれども、この図書館平面図（案）を見ますと、現在の図書館の平面図と比べてみますと、集会室がおっしゃったように倉庫になっているということで、吉祥寺図書館のオフィシャルホームページには、３つの館の中で最も若者の利用が多い図書館であり、２階には広々とした児童室がありますと書いてあって、これも一つの特色だったのだろうなと思いながら、倉庫が減ってしまっていること。

それと、赤ちゃんオアシスの実施とか、親子にもっと来てもらうということが、ちょっとずれる可能性もあるなと思って読みました。

　**気楽に来るためには、例えばおむつがえをする場所とか授乳室というものがある程度用意していただけないと、おむつも大丈夫だし、おなかもいっぱいだから行けるというのだと、気楽さが減ってしまう**なと思っていて、気楽に行けるということを考えると、子育て世代が来やすい、限定的、週１回でもいいですけれども、そのような施設側の配慮もしていただけたらなと思います。

　その点ですけれども、東京都福祉のまちづくり条例というものがありまして、図書館など全ての文化施設は対象となっている条例があります。

調べたところ、複雑で、間違っていたら指摘していただきたいのですが、全ての文化施設は、授乳及びおむつ交換ができる場所を１以上設けることと決まっております。

バリアフリー条例とは違って法的拘束力がないようですけれども、この福祉のまちづくり条例というものを少し参考にして、授乳ができるような場所とか、子育て世代が２階で過ごしやすくしてくださる配慮がこの平面図からは見えてこないのですけれども、もう少ししていただけるものがあるのかどうか、お伺いします。

　あと、今、２階にあるお手洗いが平面図でカウンターになっています。これは、簡略化した平面図だから消えてしまったのか、それともカウンターにしてしまう予定、案なのか、そこも教えていただきたいなと思います。

【養田図書館長】　　まず、１点目の高齢者または青少年のボランティアグループをどのような基準で募集するかということですが、こちらに関しては、まだ具体的な方法は考えておりませんが、市報、ホームページ、チラシ等で募集していきたいと思っています。

　２階ですが、ここはカウンターのところはもともとカウンターでして、ここは変わっていないはずです。それで、おむつがえとか授乳に関しては、現在、場所としてはありますので、職員にお声がけしていただくような形になっています。ただ、一々お声がけするのは多分大変だろうと思うので、それは今後、十分検討していきたいと考えております。

【笹岡委員】　　スペース的なこともありますので、なるべく吉祥寺が子育てにやさしいまちだというのを打ち出していただけるような２階にしていただけたら、子育て世代としては立地的にもすごく喜ばしく感じます。

授乳室に関しては、確かに声をかけたら一定程度の場所を確保してくださるということでも、授乳室があればいいのですけれども、それでもやっていただけるということはとても助かるので、それがなかったらお手洗いで授乳するお母さんたちもおりますので、そういうこともわかりやすく御案内していただけたら、もっと利用がふえるのではないかと思いました。

　あと、武蔵野市で子どもを産みますと、ブックスタートといって本をいただけるのですけれども、そういうところからも読書と武蔵野市民の結びつきというのも感じながら、私は29年間、大きくなりましたので、そういうのもとても感じられるような赤ちゃんオアシスとか、老若男女が参加できる図書館の打ち出し方というものを今後もやっていただきたいなと思います。

　あと、もう１点ですけれども、これは一つの意見なのですが、プレイスの機能と比べると、どうしても見劣りがしてしまうのは、古さとかもあって仕方がないのかなと思いますが、私の知り合いのお母さんなどは、もともと東町に住んでいて、今は中町のほうに住んでいるのですけれども、吉祥寺図書館を使うそうです。

中央図書館のほうがきれいだし、物もたくさんあるし、どうしてですかと言ったら、一番最初に子どもが生まれてすぐの政策で、吉祥寺図書館の２階部分で親子の集まりとかがあったということで、何となく愛着があるという意見もあります。

なので、プレイスと比べて機能のどうしてもカバーできない部分というのは、市民へのアプローチによって、私の図書館みたいな感覚を植えつけるではないですけれども、持っていただけたら、もっと利用が広がっていって、成長してもそこを使い続けるような愛着が生まれるのではないかと思いまして、全体的な利用者層別のアプローチというのにはすごく好感を持っておりましたので、これは要望として終わらせていただきます。